

千葉大学における教育・学修支援専門職養成プログラム (ALPSプログラム)について

我妻鉄也(千葉大学 アカデミック・リンク・センター)

本日の内容

1. 「教育・学修支援専門職」育成の必要性
2. 千葉大学アカデミック・リンク・センターにおける教育・学修支援専門職養成の取組
3. ALPS履修証明プログラムについて
4. 今後の展開

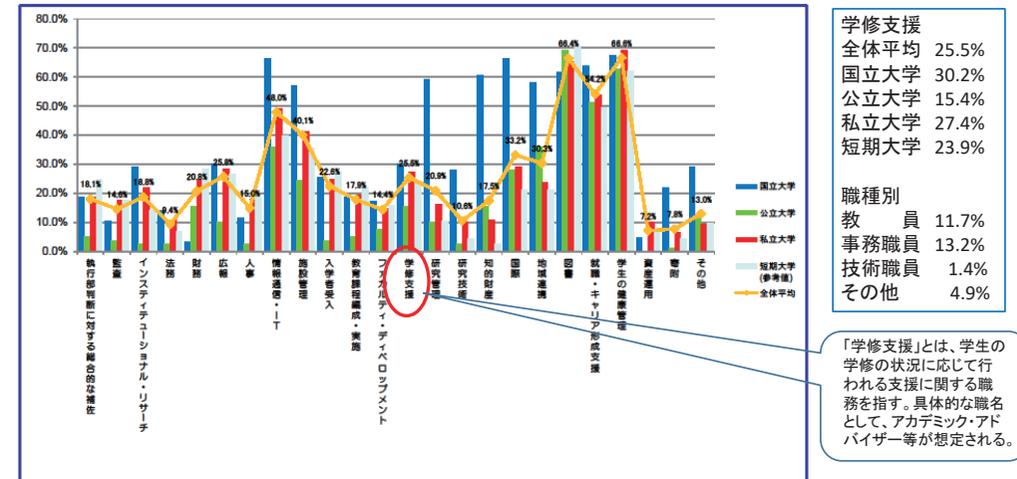
1. 「教育・学修支援専門職」育成の必要性

(1) 「教育・学修支援専門職」育成の必要性

- 「大学教育の質的転換」の必要性
学生の能動的学修への転換、学修時間の増加・確保、学位プログラムとしての組織的・体系的教育課程への転換。
中央教育審議会答申『新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて』(2012年8月)
- 「高度専門職」に関する議論
中央教育審議会大学分科会『大学のガバナンス改革の推進について(審議のまとめ)』(2014年2月)では、「高度専門職」の設置に関して、教務や学生支援の分野についても言及。
- 2017年の大学設置基準の一部改正によるスタッフ・ディベロップメント(SD)の義務化(研修の機会等)
第四十二条の三 大学は、当該大学の教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、その職員に必要な知識及び技能を習得させ、並びにその能力及び資質を向上させるための研修(第二十五条の三に規定する研修に該当するものを除く。)の機会を設けることその他必要な取組を行うものとする。

・学修支援に関わる専門的職員の配置状況(2015年)

(文部科学省先導的の大学改革推進委託事業「大学における専門的職員の活用実態把握に関する調査」)



出典: イノベーション・デザイン&テクノロジーズ(2016)

(2) 千葉大学における教育・学修支援の取組

① 千葉大学における教育・学修支援の考え方

- ・アカデミック・リンクでは、図書館機能を高等教育における教育・学修支援という文脈でどのように生かすことができるか、あるいは図書館の持っている潜在的な能力、可能性を教育・学修支援の文脈の中でどのように生かすことができるかということを考えて2011年度から実践を開始。
- ・人的支援の重要性は、アカデミック・リンクのコンセプト形成時やその後の実践において、アカデミック・リンクを構成する主要な要素として、認識されていた。
- ・人的支援を効果的に実施するためには、その人材を体系的に育成することが肝要。

出典：竹内(2017:22)

② 千葉大学における教育・学修支援の取組

・図書系による教育・学修支援

- ・アカデミック・リンク・センターの設置
- ・「アクティブ・ラーニング・スペース」「コンテンツ・ラボ」「ティーチング・ハブ」の3つ機能
- ・ALSA(Academic Link Student Assistant):GS・TT・LS
- ・動画や教材等のコンテンツ作成支援
- ・FDやセミナー等の実施
- ・「教職協働」をコンセプトに組み入れた組織運営



ALSAによる分野別学習相談

・学務系による教育・学修支援

- ・学生生活支援、学生相談、障害学生支援
- ・海外留学・留学生支援
- ・キャリア形成支援
- ・各部局における教務・カリキュラム・授業運営支援など
- ・新学部「国際教養学部」(2016年度開設)における「SULA」の配置と学内展開
 - ・SULA(Super University Learning Administrator)
 - ・教育・学修支援をワンストップで担う学務系専門職

2. 千葉大学アカデミック・リンク・センターにおける教育・学修支援専門職養成の取組

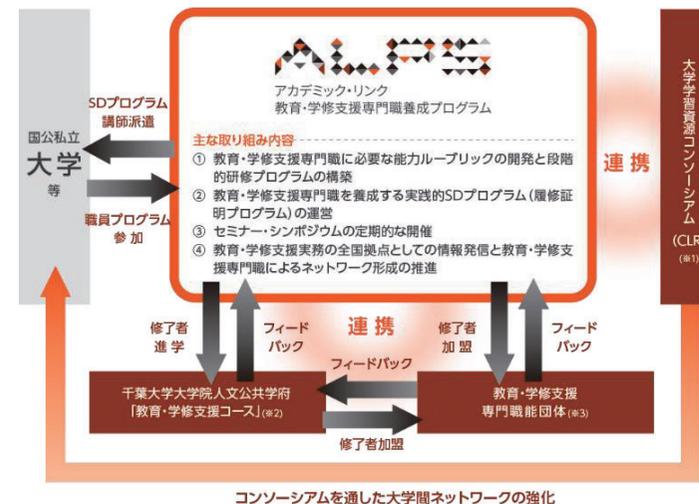
(1) アカデミック・リンク教育・学修支援専門職養成プログラム(ALPSプログラム)の取組

① ALPSプログラムとは

- ・教育関係共同利用拠点の事業で取り組む活動を「アカデミック・リンク教育・学修支援専門職養成プログラム」(Academic Link Professional Staff Development Program for Educational and Learning Support: ALPSプログラム)と称している。

- ・これからの大学に必要とされる新たな専門的職員として、「高度な実践力」と「体系化された関連知見」と「新しい教育の開発・企画力」を有する教育・学修支援専門職の確立と養成を目的とした研修プログラム

② ALPSプログラムの全体像 (ALPSプログラム詳細は、ウェブサイト[<https://alc.chibau.jp/ALPS/index.html>]をご参照ください)



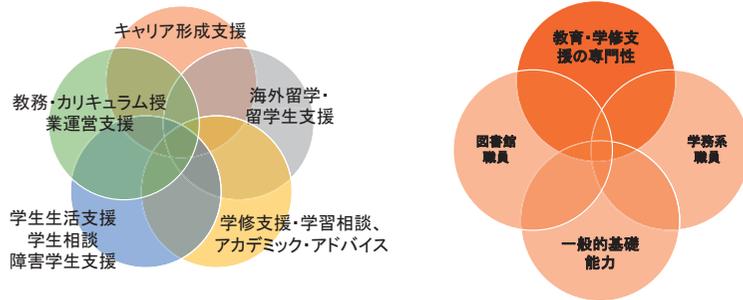
(※1) 大学教育の質的向上を図るために、電子の学習資源の製作、共有化を促進し、また学習・教育において著作物等を通じて利用できる環境を整備するための取り組みを行っている大学間コンソーシアムです。

(※2) 千葉大学大学院人文社会科学部は、平成29年4月に、人文社会学部に変更しました。改組にもない、人文公共学修士課程人文科学専攻のなかで、大学における教育・学修支援者の養成に特化した「教育・学修支援コース」を設置しました。

(※3) 今後、ALPSプログラムの修了者を中心に、大学における教育・学修支援を職務とする方による「教育・学修支援専門職団体」の組織化を進めます。同団体では、専門職としてのネットワークと相互研修に取り組みます。

(2)「教育・学修支援の専門性に必要な能力項目・能カルーブリック(試案)」の開発

①「教育・学修支援」の専門性を捉える枠組み



- ・教育・学修支援に求められる資質・能力や専門性を個々の職務に横断するものとして捉える。
- ・大学内にある様々な機能・役割の重なり合う部分であるとともに既存の職制や一般的な基礎的資質・能力では捉えきれない新たなニーズを含むものとして定義。
- ⇒汎用性・通用性を持った教育・学修支援についての資質・能力の可視化

出典：岡田他(2016)、岡田(2018)

②「教育・学修支援の専門性に必要な能力項目・能カルーブリック(試案)」の開発のプロセス

- ・939件の文献調査
- ・6大学29名の現職大学職員を対象としたインタビュー調査
- ・10大学712名の現職大学職員へのアンケート調査
- ・米国の学修支援に関する専門職団体であるACPAとNASPAによる学修支援専門職のコンピテンシー基準であるProfessional Competency Areas for Students Affairs Educatorsを参照

出典：岡田他(2016)、白川(2016)、竹内(2017)

③教育・学修支援の専門性に必要な能力項目(試案)

- ・教育・学修支援の専門性を向上させていくためには、目指すべき具体的な能力指標が必要なことから、教育・学修支援の専門性に必要な能力項目を開発

| | 学生・学修支援への関心 | 担当業務の遂行 | 大学職員としての共通性 |
|--------|---|---|---|
| 理解する内容 | ①学生・学修・教育支援の内容 ・教育内容の把握 ・学生・学修・教育支援の設計と実施 ・学生・学修・教育支援活動のプログラム改善 ・学生・学修支援の現状理解 | ②担当業務の内容 ・課題の設定と問題解決 ・情報収集・整理・分析・発信 ・業務に関する知識 ・様々な経験とその活用 | ③大学についての知識 ・高等教育・社会・教育に関する知識 ・所属大学についての理解 |
| 対人関係 | ④学生への対応 ・学生対応への基本的姿勢・態度 ・留学生への対応 ・困難を抱えた学生への対応 | ⑤担当業務への取り組み方 ・担当業務の遂行 ・チームワーク | ⑥人間関係の構築 ・人的ネットワーク ・教員との連携・協働 |
| 基盤的スキル | | | 基盤的スキル ・キャリアアップ・スキルアップの取組 ・ICTスキル ・クリティカルシンキング ・文章作成能力 ・物事を広くみる ・留学 ・説明できる力 ・メタ的な能力(社会人としてのコンピテンシー) |

11

④教育・学修支援の専門性に必要な能カルーブリック(試案)

- ・「教育・学修支援の専門性に必要な能カルーブリック(試案)」は、大学における教育・学修支援の専門性の向上を実現するためにその能力指標を、段階を踏まえて体系化・可視化することを目指して開発

| 領域 | 項目 (各領域で含む要素を具体的に示したもの) | S (知識やスキルを 発展させ、指導す ることができる) | A (知識やスキルを 実践の場の問題解 決に応用できる) | B (身につけた知識 を説明できる) | C (知識として身に付 けている) |
|--------------------|--|---|---|---|---------------------------------------|
| ①学生・学修・ 教育支援の内容 | ・教育内容の把握 ・学生・学修・教育支援 の内容の設計と実施 ・学生・学修・教育支援 活動のプログラム改善 ・学生・学修支援の現状 理解 | 学生の支援ニーズを調査し、学習者のニーズにあわせた学修支援を開発し、効果的に実施することができる。 | 個々の学生に応じた支援内容・方法を選定し、必要な支援を設計、提案することができる。 | 学修支援に必要な教育領域における最新の改善課題、論点、教育方法を説明することができる。 | 教育支援や学修支援の担当者に必要な法令遵守の意識、倫理観を身に付けている。 |
| | | また、所属大学全体の教育課程の概要を理解した上で、学内外の先進的な取り組み事例を参考に、個別の授業ニーズにあわせた教育支援に活用することができる。 | また、学生の多様性を理解し、個々人の学習上の課題を踏まえた支援を説明することができる。 | また、学修支援に必要な教育課程の基本的枠組みと個々の授業が扱っている教育内容の概要を理解している。 | |
| | | そして、学修支援・教育支援の結果を検証し、評価、改善することができる。 | | | |

12

| 領域 | 項目 | S (達成が最も容易な状態を示すこと) | A (達成がやや容易な状態を示すこと) | B (達成がやや困難な状態を示すこと) | C (達成が最も困難な状態を示すこと) |
|----------------|---|---|---|---|---|
| ①学生・学修・教育支援の内容 | 教育内容の把握 ・学生・学修・教育支援の内部の設計と実施 ・学生・学修・教育支援活動のプログラム改善 ・学生・学修支援の現状把握 | 学生のニーズを把握し、学習のニーズに合わせた学修支援を実施し、効果的に学習することができる。様々な教育課程の教育上の最新の改修情報、最新の学習方法を把握し、個別のニーズに合わせた学修支援に活用することができる。そして、学修支援・教育支援の結果を把握し、改善することができる。 | 多くの学生に対応した支援内容・方法を決定し、必要な学修支援を実施することができる。また、所属大学全体の教育課程の最新の改修情報、最新の学習方法を把握し、個々の学生の学習上の課題を踏まえた支援を説明することができる。 | 学修支援に必要な教育課程における最新の改修情報、最新の学習方法を把握することができる。また、学生の多様な学習ニーズを把握し、個々の学生の学習上の課題を踏まえた支援を説明することができる。 | 教育支援や学修支援の現状に必要十分な学修支援の提供を行っている。また、学修支援に必要な教育課程の基本的な情報と最新の改修情報に関する教育内容の把握を行っている。 |
| ②担当業務の内容 | 課題の設定と情報収集 ・情報収集・整理・分析・内容 ・整理による課題 ・様々な課題とその活用 | 所属領域における課題を整理し、改善することを目的に、情報収集・データ収集・分析・整理による課題を整理し、改善することができる。また、所属領域に関する新たな取り組みを企画立案し、改善の能力を得て、実行することができる。 | 学内外の先進的な取り組み事例を参考に、自分の担当業務に応用することができる。また、自分の業務に関する情報を、データを収集し、整理・分析した上で、業務上の課題について解決策や改善案を提案することができる。 | 学内外の最先端な情報や課題、担当業務との関連性を説明することができる。また、自分の業務に関する情報を、データを収集し、整理・分析した上で、業務上の課題について解決策や改善案を提案することができる。 | 大学における担当業務を行うために必要な知識を把握している。また、学生や教員に担当業務の現状、課題、改善に関する報告や説明、指導を行っている。 |
| ③大学についての理解 | 高等教育・社会・教育に関する知識 ・所属大学についての理解 | 高等教育の現状について整理し、分析・検討し、所属大学における教育のあり方について具体的な改善案を策定し、実践の場を提案することができる。 | 高等教育を取り巻く社会・経済情勢や政策的なことから、所属大学の教育の現状について定量的に分析・検討し、組織上の課題や改善案を整理し、提案や改善案を提示することができる。 | 国内外の大学に関する歴史や制度、法規、政策、取り巻く環境などについて基本的な知識を示すとともに、その中で所属大学の理念や特色、位置づけを説明している。また、カリキュラム編成や発達心理学などの教育や学生に関わる一般的な知識を持っている。 | |
| ④学生への対応 | 学生対応への基本的姿勢・態度 ・学生への対応 ・指導を教員と学生への対応 | 学生の対応に関わる学内外の利用可能な資源の現状について整理し、分析・検討を行い、より具体的な支援の体制や方法を、実行可能性を考慮して、企画・設計し、実施するなど、学生への対応について指導的役割を果たすことができる。 | 学生への対応に関して、国内外の様々な事例を整理し、自分の担当業務に活用することができる。また、自分の業務に関する情報を、データを収集し、整理・分析した上で、業務上の課題について解決策や改善案を提案することができる。 | アドバイザーやカウンセラー、コンソーシアムに関する情報を整理し、学内外の様々な学生への支援やコミュニケーションのあり方について説明することができる。また、所属大学における学修支援の現状や課題について説明することができる。 | 現状の学生支援のあり方や課題を整理し、自分の担当業務に活用することができる。また、自分の業務に関する情報を、データを収集し、整理・分析した上で、業務上の課題について解決策や改善案を提案することができる。 |
| ⑤担当業務への取り組み方 | 担当業務の進行 ・チームワーク | 学内外の組織的・人的な資源を最大限に活用し、課題を整理し、改善案を策定し、実践の場を提案することができる。また、所属領域に関する新たな取り組みを企画立案し、改善の能力を得て、実行することができる。 | 担当業務の進行に当たり、率先して取り組むとともに、協働する他者の後援や協力などの特性を理解し、業務への目的やモチベーションを高めるなど、チームを活性化し、業務の効率化を図ることができる。 | 所属業務の進捗や大学全体の状況や課題を整理し、自分の担当業務に活用することができる。また、自分の業務に関する情報を、データを収集し、整理・分析した上で、業務上の課題について解決策や改善案を提案することができる。 | 所属業務の進捗や大学全体の状況や課題を整理し、自分の担当業務に活用することができる。また、自分の業務に関する情報を、データを収集し、整理・分析した上で、業務上の課題について解決策や改善案を提案することができる。 |
| ⑥人間関係の構築 | 人的ネットワーク ・教員との連携・協働 | 学内外の組織的・人的な資源を最大限に活用し、課題を整理し、改善案を策定し、実践の場を提案することができる。また、所属領域に関する新たな取り組みを企画立案し、改善の能力を得て、実行することができる。 | 学内外の組織的・人的な資源を最大限に活用し、課題を整理し、改善案を策定し、実践の場を提案することができる。また、所属領域に関する新たな取り組みを企画立案し、改善の能力を得て、実行することができる。 | 所属業務の進捗や大学全体の状況や課題を整理し、自分の担当業務に活用することができる。また、自分の業務に関する情報を、データを収集し、整理・分析した上で、業務上の課題について解決策や改善案を提案することができる。 | 所属業務の進捗や大学全体の状況や課題を整理し、自分の担当業務に活用することができる。また、自分の業務に関する情報を、データを収集し、整理・分析した上で、業務上の課題について解決策や改善案を提案することができる。 |

出典: <https://alc.chiba-u.jp/ALPS/rubric.html>

(3)教育・学修支援の高度化を図るための先駆的取組から学ぶ研修会 (ALPSセミナー・ALPSシンポジウム)の実施

・ALPSセミナーの実施(年5回)

・ALPSシンポジウムの実施(年1回)



・ALPSブックレットの刊行



3. ALPS履修証明プログラムについて

(1)ALPS履修証明プログラムの概要

①履修証明プログラムとは

・学校教育法第105条に基づく仕組みであり、大学の積極的な社会貢献を促進するために、社会人等を対象とした一定のまとまりのある学習プログラム(履修証明プログラム)を特別の課程として開設し、その修了者に対して履修証明書を交付するもの。120時間以上で構成。

学校教育法

第百五条 大学は、文部科学大臣の定めるところにより、当該大学の学生以外の者を対象とした特別の課程を編成し、これを修了した者に対し、修了の事実を証する証明書を交付することができる。

②ALPS履修証明プログラムの概要

・教育・学修支援の専門性を高めるための体系的な研修プログラムとして、2016年度の試行(3コース)を経て、2017年度から履修証明プログラムの本格実施。

・「教育・学修支援の専門性に必要な能力アップ」の6領域に対応するかたちで、15コースを設定し、各コース8時間、全体で120時間以上の研修プログラム。

・最低修了年限は2年間。全てのコースの受講者に対しては、学校教育法第105条に基づく履修証明書を発行。



【基礎的テーマ】コース受講の様子



【総合的テーマ】コース受講の様子

(2) ALPS履修証明プログラムの内容

・15コースを【基盤的テーマ】【総合的テーマ】【総括的テーマ】に区分

【基盤的テーマ】

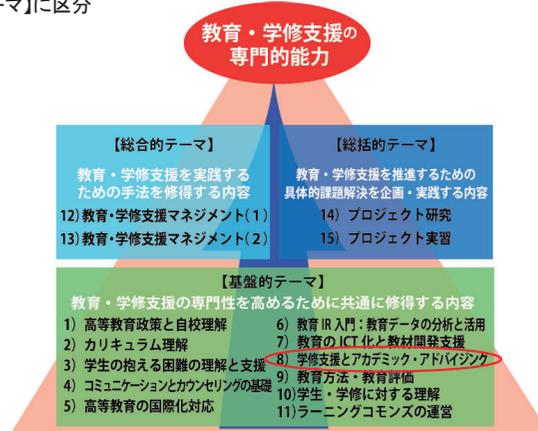
教育・学修支援の専門性を高めるために共通に修得する内容として、11のコースで構成

【総合的テーマ】

履修生同士のグループワークを通じた探求学習により、教育・学修支援を実践するための手法を修得する内容

【総括的テーマ】

教育・学修支援を推進するために、個々の履修生が自らの職務・問題意識の中から具体的なテーマを設定し、実践的にその高度化を図ることで、具体的な課題解決を企画・実践する内容



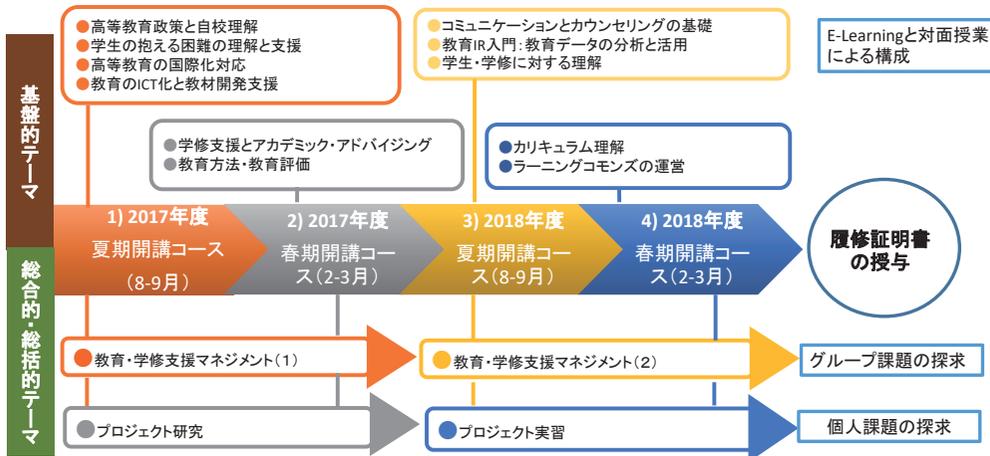
17

(3) カリキュラムマップ

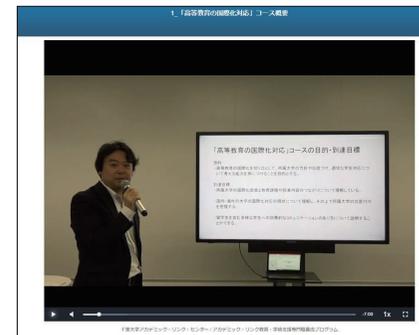
| | プログラム15テーマ | | | | | | | | | | | | | | |
|---|------------|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|----|----|----|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| 各コースが、ルーブリックの各領域のS・A・B・Cの段階のどこに対応するかを示したものを | | | | | | | | | | | | | | | |
| ① 学生・学修・教育支援の内容 | C | B | C | C | C | B | B | B | B | B | C | B | A | A | |
| ② 担当業務の内容 | - | - | C | - | - | B | C | - | - | C | - | C | B | A | |
| ③ 大学についての知識 | C | B | - | - | C | C | B | C | B | C | - | C | B | A | |
| ④ 学生への対応 | - | C | B | B | B | - | - | B | - | B | B | C | B | A | |
| ⑤ 担当業務への取り組み | - | - | C | B | - | - | - | C | - | C | C | C | B | A | |
| ⑥ 人間関係の構築 | C | - | C | B | - | - | C | C | C | C | B | C | B | A | |

18

(4) 2年間の受講の流れ<第1期生の場合>



・E-Learning



20

・対面授業



【基礎的テーマ】コース受講の様子



【基礎的テーマ】コース受講の様子



【総合的テーマ】コース受講の様子



【総合的テーマ】コース受講の様子

21

(5)ALPS履修証明プログラム受講者の状況

- ALPS履修証明プログラムの対象者
現在、教育・学修支援に携わっている/今後携わりたいと考えている大学教職員、大学院生、その他関係者
- 募集定員:30名
- 受講料:年額6万円
- 第1期履修生:31名(所属機関からの推薦・業務命令:39%、自身の希望:61%)
- 第2期履修生:14名



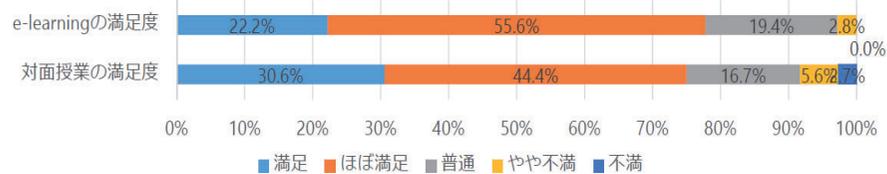
【基礎的テーマ】コース受講の様子



【総合的テーマ】コース受講の様子

22

(6)履修生の評価と見解



2017年度夏期開講コースの満足度

- 履修生からのコメント(一部)
 - 非常にもりだくさんの内容であった。
 - グループワークが多く盛り込まれており、得るものが多い授業だった。
 - 対面授業での講義型の内容はe-learningとした方が良いのではないか。
 - 業務をしながら、「教育・学修支援マネジメント」と「プロジェクト研究」を同時並行で進めるのは負担が多いように感じた。
 - 春期の対面授業は入試業務の関係で参加しづらい。

出典:岡田(2018)

23

4. 今後の展開

- 教育・学修支援専門職によるネットワーク形成の推進
ALPS履修証明プログラム修了者を中心に、大学における教育・学修支援を職務とする者による「教育・学修支援専門職能団体」の組織化
- 教育・学修支援実務の全国拠点としての情報発信
- 職業実践力育成プログラム(BP)への申請

24

参考文献

- 中央教育審議会, 2012, 『新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～(答申)』.
- 中央教育審議会大学分科会, 2014, 『大学のガバナンス改革の推進について(審議のまとめ)』.
- イノベーション・デザイン&テクノロジーズ, 2016, 『大学における専門的職員の活用実態把握に関する調査報告書』イノベーション・デザイン&テクノロジーズ.
- 岡田聡志・白川優治・米田奈穂・谷奈穂・御手洗明佳・多田伸生・奥田聡子・竹内比呂也, 2016, 「教育・学修支援に求められる大学職員の資質・能力と専門性に関する探索的研究」『大学教育学会誌』38(2): 47-56.
- 岡田聡志, 2018, 「大学における教育・学修支援の専門職能開発 — 千葉大学ALPSプログラムの構築と運営 —」, 大学教育学会第40回大会, 筑波大学.
- 白川優治, 2016, 「教育・学修支援に必要な能力項目・能力ルーブリック(試案)」千葉大学アカデミック・リンク・センター編『新しい専門的大学の職員に求められる教育・学修支援の専門職性とその養成』千葉大学アカデミックリンクセンター, 8-36.
- 竹内比呂也・白川優治・山崎千鶴・井上真琴, 2016, 「これからの大学における教育・学修支援の専門性」『大学教育学会誌』38(2): 99-103.
- 竹内比呂也, 2017, 「大学において教育や学修を支援するということが個別な実践から専門職能の理解へ」『大学教育学会誌』39(1): 21-5.

25

ご清聴ありがとうございました。

26